

## 令和6年度第2回恵庭創生懇談会議事録（要旨）

日時	令和7年1月27日（月）16：00～17：25
場所	恵庭市役所 第2・第3委員会室
出席者	小磯 修二（北海道文教大学 地域創造研究センター長）
	細川 拓真（恵庭商工会議所 青年部会長）
	蠣崎 こず恵（北海道ハイテクノロジー専門学校 学部長）
	安藤 隆善（北洋銀行 恵庭中央支店長）
	岡部 利夫（北海道銀行 恵庭支店長）
	梶山 征廣（北海道新聞社 千歳支局長）
	宮崎 圭介（連合北海道恵庭地区連合 会長）
	川原田 聡（千歳公共職業安定所 所長）
	矢野 敦子（北海道石狩振興局 地域創生部長）
	谷田 浩一（中央コンピューターサービス株式会社 代表取締役社長）
議事	（1）新しい地方経済・生活環境創生交付金について
	（2）恵庭市都市計画マスタープランの改定について

流れ	内容
開会	<p>●企画振興部次長</p> <p>開会のあいさつ</p>
確認	<p>●企画振興部次長</p> <p>欠席者について説明</p>
市長 あいさつ	<p>●市長</p> <p>本懇談会で議論いただいた第3期恵庭市総合戦略に基づき、毎年の予算を組み立て、まちづくりを進めているところです。本懇談会は大変大切なものであると考えており、活発なご意見をお寄せいただいていることに改めて感謝申し上げます。</p> <p>さて、10月より石破政権に変わり、地方創生が大きなテーマの一つになりました。これまで前政権のデジタル田園都市国家構想は、新しい地方経済・生活環境創生本部に変更となりました。予算はこれから審議されますが、地方創生に関してはこれまでの倍になるという話も聞いております。このように国の変化がありますが、私達のまちの進展に寄与できるよう準備を進めてまいります。</p> <p>現在、第5期恵庭市総合計画の期間中ですが、令和8年度から新しい10</p>

<p>市長 あいさつ</p>	<p>年間の総合計画がスタートします。これまでの恵庭市におけるまちづくりの進め方、考え方を基に、新たな半導体工場やボールパークといった大きな変化を取り入れながら、令和8年度からの恵庭市のまちづくりの展望についての計画の策定を進めています。これも、小磯会長にお世話になりながら策定作業を進めているところでありますが、今年度は様々な市民の意見を聞く場を作ってまいりました。分野ごとのワークショップ、市民の広場などにおいて、広く市民に今後のまちづくりについてのご意見をいただきました。市民意識調査や中学生アンケートの実施、大学生や高校生からもご意見をいただき、審議会においてその意見をもとに審議を行っています。また、議会では特別委員会が設置されています。本懇談会で審議し、策定した第3期総合戦略と、現在、策定を進めている総合計画の整合性を図りながら実行していこうと思います。</p> <p>並行して、都市計画マスタープランという、恵庭市の土地利用の計画の見直し作業を行っており、こうした策定作業はいくつもありますが、一体として前に進めていこうとしています。</p> <p>引き続きご意見を賜りますようお願い申し上げます。</p>
<p>確認</p>	<p>●企画振興部次長 配布資料の確認</p>
<p>議事</p>	<p>●事務局 議題 「(1) 新しい地方経済・生活環境創生交付金について」 説明</p> <p>●副会長 北海道でも同様の内容を把握しています。交付金については、どのように変更となったのかわかりにくい部分がありますが、手続き上、地域再生計画がパッケージ化され大きくくりになり、予算が増額されたところと大きいと思います。</p> <p>●会長 地方創生のこれまでの政策の評価は難しいと思いますが、そこをある程度認め、反省を踏まえて、新しい政策をしていこうという意図が見られると思います。</p> <p>最後に説明があった地域再生計画の認定について、これまでは交付金を申請する場合は必ず計画の作成が必要で、自治体が忙殺されていましたが、今後は包括的な認定で足りるということになります。具体的な形は見えませんが、国の前向きな姿勢として受け止めていいと思います。</p>

**●市長**

都市計画マスタープランはおよそ 10 年ごとに改定し、中間見直しを 5 年で行うのが通常ですが、今回は令和 3 年策定のを令和 6 年に見直しを行います。先ほどの説明のとおり、恵庭市を取り巻く状況が変わっており、特に資料 2-1 の 13 ページに北海道のシミュレーション結果の記載がありますが、千歳市のラピダス社が 2027 年度の量産開始となれば、経済波及効果は 10.1 兆円、さらに住宅設備、関連産業で 300 億や 800 億を超える投資効果が見込まれています。そうなったときには、ラピダスのある千歳市だけではこれを消化することはできませんので、周辺の恵庭市、苫小牧市、北広島市にも影響が出てくることを想定し、前倒しし、今回のマスタープラン改定作業を進めています。

**●会長**

人口ビジョンは長期的な人口減少を見据えて、具体的な数字で確認しながら施策を進めていくという計画ですが、恵庭と周辺地域を含め、ラピダスという戦後の北海道にとってこれまで経験のない巨大な投資が国の政策として進められています。そこで出てくる新たな需要を受け止めるという決断を都市マスでしており、地方創生の人口減少時代における人口の見通しに、外発的な動きの中で出てくるものをどのように地域に呼び込んでいくのか人口ビジョンの策定で求められています。ただ減少するのではない人口をどのように見極め、人口ビジョンの取り組みをどのような形で進めていくのか、恵庭らしい政策につなげる一つのチャンスだと思っています。恵庭らしい取り組みをどのように進めていくのか、この機会に議論することも必要だと思います。

**●市長**

2019 年に人口ビジョンを策定したときは、令和 2 年に人口のピークを迎え、その後は減少していくという推計を行っていました。策定時は、今後急速に人口減少するという社人研推計でしたが、恵庭市ではなだらかに減少するという推計を行いました。しかし、令和 2 年以降の人口は増え続けています。都市計画マスタープランには住居や工業の計画も盛り込まれていますので、改定が終わりましたら、令和 5 年の新たな社人研推計を基に、新たな人口ビジョンを考える必要があると考えています。

**●会長**

単に目標値を掲げるという従来型のプランニングでなく、これからの時代は色々な環境変化に向き合う中で、柔軟な目標を示すビジョンがあってもいいと思います。この地域を取り巻く環境はまさにそうで、確実にこう

	<p>なるという動きではないので、そのようなことを柔軟に受け止められるプランを進めてはどうかと思います。</p>
意見交換	<p>●A委員</p> <p>商工の立場で考えると、子会社といいますか、小さい会社が商工会議所内に約1,200社ありますが、その中でどのように私達が変わっていかなくてはいけないのか、それを考えなくてはならないと痛感しています。そういったところを今度、市と商工会議所で連携を行い、言い方は悪いかもしれませんが、こちらも生き残っていけるのか、皆さんと共存していけるのか、それを考えていきたいと思っています。</p> <p>●会長</p> <p>経済団体としての商工会議所の役割は大きいと考えています。人口減少の中でどれだけ需要を作り出していくのかということは、民間企業の力が大きく、地域とどのように向き合うかが重要です。地域創造研究センターでは、民間の方々力を地域の中でどこまで発揮できるのか、手探りでサーベイしていきたいと思っていますので、ご協力をいただきたいと思っています。</p> <p>●B委員</p> <p>第2世代交付金について、資料1の9ページに記載がありますが、従来は総合的なアウトカムに具体的な指標が設定されていました。今後は下段のとおり設定するとのことでしたが、とても抽象的だと感じました。妥当な水準、KPIをどう設定するかというところだと思いますが、自由度が上がったのか、不透明になったのか、難しいと感じました。</p> <p>土地利用について、資料2-1の29ページ、企業立地動向調査で進出可能性企業が約30社、さらにそこからニーズを調査して具体的な計画があるのが17社、条件次第で検討可能なのが31社ということですが、次のページ、聞き取りをしているのは5団体ということでした。この5団体とは企業だけではないと思いますが、説明を聞いていて消極的なイメージを受けました。恵庭は魅力的まちなので、もっとブランディングをしっかりと、こちら側から仕掛けていくこともできると思っています。説明を聞いたときに、「こういう要望があるから、このように合わせていきましょう」と聞こえたのが残念に思います。土地利用を検討する3エリアを、むしろこちら側から「今後の条件次第で検討が可能です」という会社の方に新規参入していただいて、活性化させていければいいのではないかと思います。</p> <p>●会長</p> <p>1件目の交付金については私も同感で、非常に抽象的でどういう指標を書けばいいのか難しいと思います。これは今後、国からの通知を待とうと</p>

意見交換

思います。

●市長

調査は北海道に拠点のある製造業の約 2,000 社と半導体関連企業の約 4,000 社に出しましたが、その中でラピダス社が建設中ということ想定して回答いただいたところが約 300 社ありました。そして、その約 300 社を含め、通常業務での問い合わせや引き合いなどが市に来ますので、そういったものも合わせて実際に職員がそれらの会社に調査を行ったものが、29 ページです。その中で進出の確度が高いところが 17 社あります。しかし、現在恵庭には土地がないものですから、例えば 2 ヘクタール用意があるなら考えるといった、今後の条件次第というところが 31 社でした。

30 ページの「団体」とは具体的な企業ではなく、開発事業者、デベロッパーといった団体で、住宅地や工業団地の開発に興味を持っている大手の 5 団体に聞き取りを行いました。調査の中で話し合いをし、記載の 3 エリアに開発の可能性があるという判断をしました。

委員からお話がありましたように、恵庭の魅力をしっかりと打ち出しながら、その中から興味を持ってくれる事業者が出てくるのがいいことだと思いますので、そういったところとこれから話し合いをしながら、開発の可能性について追及していきたいと思います。

●会長

B 委員のご懸念は、要望があったからそれを受け止めるだけの姿勢ではいけない、ということだと思います。需要を見極めるための一つの参考としての調査ということ、これからの説明で誤解のないように配慮していかれてはいかがでしょうか。

●C 委員

都市計画マスタープラン改定のご説明をいただき、市長からもこれから人口が増加するというお話がありました。先週、デベロッパーが恵庭、北広島、千歳、苫小牧の支店に人口や住宅事情を教えてほしいということで来られました。道外企業も注目しているほど人口が増加する見込みであり、その中で西島松地区の土地利用を検討するという話がありました。人口がさらに増加したときに、土地利用を検討する地区を増やす計画ができたときは、またマスタープランの見直しが必要になるのか疑問に思います。

都市計画マスタープランの話とはずれますが、空き家の問題が大きいと思います。そのアプローチはどのようにされていますか。

意見交換

●まちづくり拠点整備室長

住生活基本計画に基づき、空き家対策を行っています。具体的には、市内の不動産屋と連携し、不動産流通をサポートする仕掛けを作りました。今住んでいらっしゃる方が家を手放したいだとか、相談したいというときに、いきなり不動産会社に行くのはなかなかハードルが高いという場合に、市が中間に入り、市に登録していただいた不動産を紹介します。

その他にも、これから高齢になったときに住宅をどうするか悩んでいる方々向けに不動産の専門者を招いて、今住んでいる住宅をどうすればいいのか、新しい住まいをどうするというセミナーを実施しておりますが、非常に関心高く受講していただいています。実際に不動産屋に行ってお手放すということにはすぐにはならないのが実態です。一方で、不動産は流通すると早いスピードで売れてしまいますので、中古住宅の数が絶対的に不足しています。市としては既存住宅の動きからスタートしていますが、都市計画マスタープランの方針から、新規の住宅地の話にどうしても焦点が当たっていますが、既存の住宅関係をどうするのかも、大きなテーマですので、セットで考えていきたいと思っています。今後、ご協力いただき、進めていきたいと思っています。

●市長

前段のお話ですが、日本全体あるいは北海道全体が人口減少している中で、今回の都市計画マスタープランよりもさらに住居系を増やすかは、今のところは考えていません。必要に応じて土地利用する場所を示しておくということであって、それ以上の需要が出てくればその時にまた見直しということになると思います。

●D委員

お客様の集まりに参加したときに、大手のゼネコンやデベロッパーから、都市計画マスタープランの計画が進んでいるのかを聞かれましたので、かなり注目を集めている政策であると感じています。我々は地域の金融機関ですので、それを公共事業として進めていく部分が多いのか、PFIのような形で民間の力を活用されるのかというところは、これから詰めていく話だと思いますが、大変関心があります。

最近、北広島で不動産の実際の売買価格を見る機会がありました。江別の方にまっすぐ抜けていくまちなかのところで、坪 80 万くらいのところがありました。千歳では 100 万から 200 万ほどと聞きますし、売買が進んでいくとそれが公示地価に跳ねてくるので、お住まいの方の固定資産税がどんどん上がってくることになります。実際にそこまでお住まいの方にとってマイナスに働くことはないと思いますが、さすがにこれだけ価格が上

意見交換

がっているところを聞きますと、そういった懸念も出てくるのかなと思います。

また、先週金曜日に日本銀行が政策金利を上げていますので、そうなる  
と、我々の住宅ローンも金利を上げざるを得ないというところが、これから住宅地を増やしていくうえで、一部懸念事項といいますか、そういったところはあるのかなと感じています。

●E氏

普段は中標津におりまして、道東ではリゾート会社の川湯温泉進出にあわせて大規模な再生計画が動いています。また、中標津に新しく乳業メーカーが大きな工場を建てることに伴い、人が集まり、色々なお金が動いています。いわゆる企業誘致ということで、土地がたくさんありますので、大きなものを建てるには非常に有利だと思いますが、同時に、少し離れたところにある古くなった工場が閉鎖され、雇用がなくなります。このように外的な要因で一喜一憂しかねないということで、地方創生は、企業誘致と生業を起こす方の「起業」を組み合わせないと上手くいかないだろうと思います。

本日の説明を聞いて、恵庭市はコンパクトであるということが非常に強みになると思います。大規模な土地がないという弱みがありますが、これこそ強みに変えればもっと違うことが考えられるのではないかと思います。大規模な土地が必要ではない業態が世の中にあり、我々のいるIT業界は、大きな場所はそれほど必要ではありません。道東では、2040年に向かって農業の全自動化をやりたいという人や、教育はこれから地域全体で子どもたちを育てなければならない、そのために情報を地域で共有すべきだと考えてアプリケーションを作っている人がいて、そういう起業家はネットで全部つながっているため、場所は必要ではありません。おそらく社員は日本の色々な所において、そして正社員ではなく、いくつかの企業と契約しているような全く違う雇用形態でやっています。そのようなものを上手く組み合わせれば、土地がないという弱みも、強みに変えていけるのではないかと思います。

●会長

道東という違う地域から見ると、恵庭の特性がよりわかりやすく理解できると、非常に大切なお意見をいただきました。

●F委員

工業団地がほとんど完売ということで、ちょうど4、5年前に旭川におりまして、明治乳業旭川工場が恵庭に集約される際の道新の原田市長のコメントを見て、少し複雑な気持ちになったことを思い出しました。ご縁が

意見交換

あつて本懇談会に出席していることを非常に嬉しく思っております。

我々は雇用問題を大きく考えております。ラピダス社の進出については、非常に大きなメリットがあるということが反動にもなると思いますので、都市計画マスタープランに合わせながら地元企業をしっかり支えていくということも必要だと思っております。

11月末現在の新規高校卒の内定状況は管内が伸びていまして、恵庭、千歳以外の道内、道外は減っています。希望者が減っているようです。地元で就職したいという方が増えているということで、これがまたラピダス社の関連企業も含めて追い風が吹くと、さらに若者の地元定着が進むのではないかと思ひ、期待感を持っております。

居住環境については、住むところがなくなってきていると思ひます。我々は転勤族ですが、今年、苫小牧に住んでいる者が千歳に転勤になり、お子さんが長沼で働くので、恵庭に住みたいと物件を探しましたが、なかなかない状況のようです。U I J ターンで人を外から呼び込むときに居住環境が必要ですが、長く見ると人口減少傾向にあるということもあり、難しさもありますが、気になっているところです。

●G委員

教員なので子どもの視点でお話させていただきます。今、小学校3年生を担当していますが、国道沿いのお店が多い、千歳寄りには工場が多い、といった恵庭市の土地利用について地図を見ながら勉強しています。資料2-1のようなクロス矢印が教科書に載っていれば、恵庭市の今後のまちづくりの方針がわかると思ひました。

前回会議ではスポットクーラーのお話をしましたが、今、学校にエアコン工事に市内業者の方に入ってもらっていますが、子どもたちには恵庭市や教育委員会といった色々な人たちがみんなのためにやってくれているんだよ、という話をして、恵庭に愛着を持ってもらいたいと思ひています。

国語の学習で、自分のまちを紹介する文章を書くものがありましたが、はなふるについて書く子どもがとても多かったです。子どもたちはよく恵み野中央公園で遊びますが、札幌の大通公園より広いという話をしていました。放課後の学童クラブでも色々なところで遊んだりしていますが、遊ぶところが色々あつて楽しいという話をしていました。

西島松地区の新しく住宅地ができる付近は、札幌や北広島の方から通勤してくる方がなかなかのスピードで走っていたりします。住宅地になったときに、交通安全の面と放課後の学童クラブの受入れについて気になりました。

意見交換	<p>恵み野中央公園やはなふるは、トンネルや川沿いから道路を渡らずに幅広く動けるので、子どもたちも動きやすいと思います。西島松も子どもたちが楽しく遊べるように開発されると嬉しいです。</p>
	<p>●H委員</p> <p>都市計画マスタープランを読んで、交流の視点が新たに加わり、よくできていると思いました。</p> <p>半導体の心臓部であり、オランダの会社でしか製造できないEUVという機械がありますが、これがラピダスに搬入され、組み立て作業が進んでいると聞いています。昨年末、その記念式典で小池社長、清水専務が話していましたが、2ナノメートルの半導体は現在どこも量産しておらず、おそらく1番手で販売を始めるのはサムスンかTSMCとのことでした。ラピダスは今年4月に試作が始まるので、2年後の量産となると2番手3番手になるというところでしたが、心配していないとのことでした。2ナノメートルの半導体の需要は、サムスン、TSMC、ラピダスが量産に入っても、おそらく需要の6割もカバーできないと言われているそうだからです。量産化できれば私達は間違いなく成功するというのを、強く主張されていたのが印象的でした。</p> <p>前回会議では、恵庭は恵まれているという話をしましたが、もう少しアグレッシブに夢のあるプランを立てれば、それがさらに相乗効果を持つと思うので、そういうことをベースに考えてこれからの色々な計画作りをしていけば、まちがもっと良くなると思います。</p>
	<p>●副会長</p> <p>工業団地ができ、それにあわせて住宅地ができ、次にできるのが商業地で、私はこの商業地がキーワードになると思いました。来た人たちが暮らしやすいように商業地を整え、また、恵庭には人が交流できる大きい場所として、先ほどお話に出ていたはなふるがありますが、これを発展させることや、新たに人の集まるところがキーワードになると思いました。また、他の計画と一体的に進めるという点も重要だと思います。</p>
	<p>●会長</p> <p>今回のラピダスのこれほどの動きは、戦後の北海道にはありませんでした。そこにどう向き合うか、この大きな投資機会に地域としてどういう姿勢で臨むのか、そこはある程度思い切った前向きな姿勢でまちづくりを進めるという主張が大事だと思います。</p> <p>もう一つは働く方も住む方も含め、かなり大きく変化しているという点です。恵庭はこれまで住むという部分に重点を置いて政策を構築してきましたが、それだけでなく交流するという、時代の変化を上手く受け止めた</p>

意見交換	まちづくりが大事だと思います。恵庭は地方創生の新たな動きへの向き合い方だけではなく、総合計画、都市計画マスタープランと大きな動きがあり、思い切った速やかな決断が都市政策の姿勢に重要だと思います。その機会を具体的な中身にすべく、どんどん取り込んでいくような前向きな議論を進めていただきたいと思います。
閉会	●企画振興部次長 閉会のあいさつ